

ディーゴ ガイド



2026.8.17-23

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior
Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II
Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(1〜3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

L T G Guide

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship

41:1 彼は私を本殿へ連れて行った。その壁柱を測ると、その幅は両側とも六キュビトであった。これが壁柱の幅であった。
41:2 入り口の幅は十キュビト、入り口の両脇の壁はそれぞれ五キュビトであり、本殿の長さを測ると四十キュビト、幅は二十キュビトであった。
41:3 彼が奥に入り、入り口の壁柱を測ると二キュビト、入り口は六キュビト、入り口の両脇の壁は七キュビトであった。
41:4 彼はまた、本殿の奥に長さ二十キュビト、幅二十キュビトを測って、私に「これは最も聖なる所だ」と言った。
41:5 彼が神殿の壁の厚さを測ると六キュビト、神殿の周囲を囲む脇間の幅は四キュビトであった。
41:6 脇間は三階建てで、各階に三十あった。それらは神殿の壁に差し込まれていた。脇間がぐるりと取り囲んでいたもので、それが支えとなっていた。しかし神殿の壁には、支えが差し込まれていなかった。
41:7 脇間の幅は、螺旋階段で上に上るごとに広がっていた。というのは、神殿はその建物の四方を、上の方まで脇間で取り囲まれていたからである。そのため、神殿には、地階から中間の階を通して最上階に上る場合、上の方により広い空間があることになる。
41:8 私は神殿の周りが高くなっているのを見た。脇間の土台は、長めの六キュビトの測り竿いっぱいであった。
41:9 脇間の外側の壁の厚さは五キュビトであった。神殿の脇間と
41:10 部屋との間には空き地があり、それが

神殿の周囲を幅二十キュビトで囲んでいた。
41:11 脇間の入り口は空き地の方を向いていて、一つの入り口は北向き、もう一つの入り口は南向きであった。その空き地は幅五キュビトで周囲を囲んでいた。
41:12 西側の聖域にある建物は、その奥行が七十キュビト、その建物の周りの壁は、厚さ五キュビト、その間口は九十キュビトであった。
41:13 彼が神殿を測ると、長さは百キュビトであった。また、その聖域と建物とその壁とで、長さ百キュビトであった。
41:14 また、東側の聖域と神殿に面する幅も百キュビトであった。
41:15 彼が神殿の裏にある聖域に面した建物の長さ、その両側のバルコニーを測ると、百キュビトであった。本殿と、その前の庭の玄関の間、
41:16 敷居と格子窓と、三階になったバルコニーには、床から窓まで羽目板が張り巡らされ、窓はおおわれ、
41:17 それは入り口の上部、神殿の内側と外側に及んでいた。そして、これらを囲むどの壁の内側にも外側にも綿密に考案された図柄があり、
41:18 ケルビムとなつめ椰子の木が彫刻してあった。なつめ椰子の木はケルビムとケルビムの間にあり、それぞれのケルビムには二つの顔があった。
41:19 人間の顔は一方のなつめ椰子の木に向かい、若い獅子の顔はもう一方のなつめ椰子の木に向かい、このように神殿全体の周りに彫刻してあった。
41:20 床から入り口の上まで、ケルビムとなつめ椰子の木が彫刻してあった。本殿の壁

も同様であった。
41:21 本殿の戸口の柱は四角で、至聖所の前には何か
41:22 木の祭壇に見えるものがあり、高さは三キュビト、長さは二キュビトで、その四隅も台も側面も木でできていた。彼は私に「これが【主】の前にある机だ」と言った。
41:23 また、本殿と至聖所にそれぞれ二つの扉があり、
41:24 それらの扉にはそれぞれ二つの戸が折りたたむようになっている。すなわち、一つの扉には二枚の戸があり、もう一方の扉にも二枚の戸があった。
41:25 本殿の扉には、壁に彫刻されていたのと同じような、ケルビムとなつめ椰子の木が彫刻してあった。外側の玄関の間の前には木のひさしがあった。
41:26 玄関の間の両脇の壁には、格子窓となつめ椰子の木があり、神殿の脇間とひさしも同様であった。

イスラエルの回復はなによりも神殿の回復でした。つまりは信仰の回復です。すべてはそこから始まるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

18日 火曜

エゼキエル



42:1 彼は私を北の方の外庭に連れ出し、聖域に面し、北方の建物に面している部屋へ連れて行った。

42:2 その長さは百キュビト、その端に北の入り口があり、幅は五十キュビトであった。

42:3 二十キュビトの内庭に面し、また外庭の石畳に面して、三階になったバルコニーが向かい合っていた。

42:4 部屋の前には内側への通路があり、その幅は十キュビトで、長さは百キュビトであった。その部屋の入り口は北に向いていた。

42:5 最上階にある部屋は、バルコニーが場所を取ったので、建物の地階の部屋よりも、また中間の階の部屋よりも狭かった。

42:6 なぜなら、これらは三階建てであり、庭の柱のような柱がないからである。それで、最上階の部屋は地階の部屋よりも、また中間の階の部屋よりも狭かった。

42:7 また、これらの部屋の前の外庭の方に、部屋に沿って外側に石壁があった。その長さは五十キュビトであった。

42:8 というのは、外庭に面する部屋の長さは五十キュビトだからである。そこで、本殿に面する側は百キュビトとなる。

42:9 これらの部屋の下には、外庭から入れるように、東側に出入り口があった。

42:10 聖域や建物に面している、南側の庭の厚い石壁の中には、部屋があった。

42:11 その部屋の前には通路があった。部屋は北側の部屋と同じように見え、長さも同じ、幅も同じで、そのすべての出口も、その構造において入り口と同様であった。

42:12 南側の部屋の入り口も同様で、通路の

先端に入り口があり、東側の石壁に面し、そこから入れる通路があった。

42:13 彼は私に言った。「聖域に面している北の部屋と南の部屋は、聖なる部屋であって、【主】に近づく祭司たちが最も聖なるささげ物を食する所である。彼らはそこに最も聖なるもの、すなわち、穀物のささげ物、罪のきよめのささげ物、代償のささげ物を置く。その場所は聖だからである。

42:14 祭司たちは、聖所に入ったら、聖所からそのまま外庭に出てはならない。彼らが奉仕に用いる服は聖であるから、そこに置き、ほかの服に着替えてから民に属するところに近づくのである。」

42:15 彼は神殿の内側を測り終えると、東向きの門に私を連れ出し、神殿の周囲を測った。

42:16 彼が測り竿で東側を測ると、測り竿で五百竿であった。

42:17 北側を測ると、測り竿で五百竿であった。

42:18 南側を測ると、測り竿で五百竿であった。

42:19 彼が西側に回って測り竿で測ると、五百竿であった。

42:20 彼が外壁の周りを巡って四方を測ると、その長さは五百竿、幅も五百竿で、聖なるものと俗なるものとを分けていた。

神殿と外界との関係が記されているようです。重要なことは神聖な服のままに民に近づかないようにということです。神様に対する姿勢とこの世に対する姿勢を混同しては、神様の聖なることや全能を忘れてしまいます。

主は安心な方であり愛のお方ですが、聖なる尊いお方であることを忘れないようにしましょう。

神を恐れる心を持ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 19日 水曜

エゼキエル



43:1 彼は私を東向きの門に連れて行った。
43:2 すると見よ、イスラエルの神の栄光が東の方から現れた。その音は大水のとどろきのようで、地はその栄光で輝いた。
43:3 私が見た幻は、かつて主がこの町を滅ぼすために来たときに私が見た幻のようであり、またその幻は、かつて私がケバル川のほとりで見た幻のようでもあった。私はひれ伏した。
43:4 【主】の栄光が東向きの門を通して神殿に入ってきた。
43:5 霊が私を引き上げ、私を内庭に連れて行った。なんと、【主】の栄光が神殿に満ちていた。
43:6 私のそばに人が立っていたが、私は、神殿の中から声が私に語りかけるのを聞いた。
43:7 その声は私に言われた。「人の子よ。ここはわたしの玉座のある場所、わたしの足の踏む場所、わたしが永遠にイスラエルの子らの中で住む場所である。イスラエルの家は、その民もその王たちも、もう二度と、淫行や高き所の王たちの死体で、わたしの聖なる名を汚さない。
43:8 彼らはかつて、自分たちの敷居をわたしの敷居のそばに設け、自分たちの戸口の柱をわたしの戸口の柱の傍らに立て、わたしと彼らとの間には、ただ壁があるだけであった。そして彼らの忌み嫌うべきわざによって、わたしの聖なる名を汚した。そこでわたしは怒って、彼らを絶ち滅ぼした。
43:9 今、彼らにその淫行や王たちの死体を、わたしから遠ざけさせなければならない。そのとき、わたしは永遠に彼らの中に住む。
43:10 人の子よ。あなたは、イスラエルの家

が自分たちの不義によって辱められるため、彼らに神殿を示し、彼らにその模型を測らせよ。

43:11 もし彼らが、自分たちの行ったあらゆることによって恥じるなら、あなたは彼らに神殿の構造とその模型、その出口と入り口、すなわち、そのすべての構造を、神殿のすべての掟、すべての構造、すべてのおしえとともに示し、彼らの目の前でそれを書き記せ。彼らがそのすべての構造と掟を守り、それらを行うためである。

43:12 神殿に関するおしえは次のとおりである。山の頂の周囲全体は最も聖なる所である。これが神殿に関するおしえである。

神殿が回復し、そこに神様の栄光が満ちました。このように私たちの回復も神様との関係回復、すなわち信仰の回復から始まりますが、その信仰生活に神様ご自身が臨在して下さることが重要です。

そこで始まるのが、「聖なる名を汚さない」というように、罪のきよめであり、悔い改めです。私たちも、仕事や生活、勉強や人間関係などを修復しなくてはならない時があるでしょう。それは単に見える部分が変わればよいというわけではありません。神様との関係回復、神様の臨在の回復、そして悔い改めを大切にしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



20日 木曜

エゼキエル



43:13 キュビトによる祭壇の寸法は次のとおりである。このキュビトは、普通のキュビトに一手幅足したものである。祭壇の溝は深さ一キュビト、幅は一キュビト、周囲の縁取りは一ゼレトである。祭壇の高さは次のとおりである。

43:14 この地面に接する溝から下の台座までは二キュビト、幅は一キュビト。この低いほうの台座から高いほうの台座までは四キュビト、幅は一キュビト。

43:15 祭壇の炉は高さ四キュビトであり、祭壇の炉から上の方へ四本の角が出ている。

43:16 祭壇の炉は長さ十二キュビト、幅十二キュビトの正方形である。

43:17 その台座は長さ十四キュビト、幅十四キュビトの正方形で、その周囲の縁は半キュビト、周囲の溝は一キュビトであり、その階段は東に面している。」

43:18 その声は私に言われた。「人の子よ、【神】である主はこう言う。祭壇の上で全焼のささげ物を献げ、血を振りかけるための祭壇を造る日には、次のことが祭壇に関する掟となる。

43:19 わたしに仕えるためにわたしに近づく、ツァドクの子孫のレビ人の祭司たちに、あなたは罪のきよめのささげ物として若い雄牛一頭を与えよ——【神】である主のことば——。

43:20 あなたはその血を取り、祭壇の四本の角と、台座の四隅と、周りの縁に付けて祭壇から罪を除き、そのための宥めを行う。

43:21 また、罪のきよめのささげ物の雄牛を取り、これを聖所の外の、神殿の特定の場所で焼かなければならない。

43:22 二日目に、傷のない雄やぎを罪のきよめのささげ物として献げ、雄牛で罪を除いたように祭壇から罪を除く。

43:23 罪を除き終えたら、傷のない若い雄牛と、群れのうちの傷のない雄羊を献げる。

43:24 それらを【主】の前に献げ、祭司たちがそれらの上に塩をまき、全焼のささげ物として【主】に献げる。

43:25 七日間、あなたは毎日、罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹を献げ、傷のない若い雄牛一頭と、群れのうちの傷のない雄羊一匹を献げる。

43:26 七日間にわたって祭壇のための宥めを行い、それをきよめ、聖別する。

43:27 この期間が終わり、八日目とその後は、祭司たちが祭壇の上で、あなたがたの全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げる。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れる——【神】である主のことば。」

ここではささげものについて、とくに全焼のささげ物についての記述です。旧約においてはこれはいづれある者が、神の前になるための唯一の道でした。

今はイエス様ご自身のささげものという、つまり十字架の救いがあるので、私たちはその救いのゆえに主の前に出ることが出来ます。祈りも聞いた頂けます。

主はかつての罪を思い起こさせますが、それは私たちの謙遜と感謝のためです。またさらには赦しの確信と祝福のためにです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



44:1 彼が私を聖所の東向きの外の門に連れ戻すと、門は閉じていた。
44:2 【主】は私に言われた。「この門は閉じたままにしておけ。開けてはならない。だれもここから入ってはならない。イスラエルの神、【主】がそこから入ったからだ。これは閉じたままにしておかなければならない。
44:3 君主だけが、君主として【主】の前でパンを食べるために、そこに座ることができる。彼は門の玄関の間を通過して入り、そこを通過して出て行く。」
44:4 彼は私を、北の門を通過して神殿の前に連れて行った。私が見ると、なんと、【主】の栄光が【主】の宮に満ちていた。私はひれ伏した。
44:5 すると、【主】は私に言われた。「人の子よ。【主】の宮のすべての掟とそのすべてのおしえについて、わたしがあなたに告げていることをすべて心に留め、それに目を注ぎ、耳を傾けよ。神殿の入り口と、聖所のすべての出口を心に留めよ。
44:6 あなたは、反逆のイスラエルの家にこう言え。『【神】である主はこう言われる。イスラエルの家よ。あなたがたのあらゆる忌み嫌うべきわざは、もう十分だ。
44:7 あなたがたは、心に割礼を受けず、肉体にも割礼を受けていない異国の民を連れて来て、わたしの聖所にいさせ、わたしの神殿を汚した。あなたがたは、わたしのパンと脂肪と血を献げたが、あなたがたの行った忌み嫌うべきあらゆるわざによって、わたしとの契約を破った。
44:8 あなたがたは、わたしの聖所での任務も

果たさず、かえって、自分たちの代わりにほかの者たちを、わたしの聖所で務めを果たす者として置いた。』」
44:9 【神】である主はこう言われる。「心に割礼を受けず、肉体にも割礼を受けていない異国の民は、だれもわたしの聖所に入ってはならない。イスラエルの子らの中にいる異国の民はみなそうだ。
44:10 イスラエルが迷って自分たちの偶像を慕い、わたしから迷い出たとき、レビ人もわたしから離れ去ったので、彼らは自分たちの咎を負わなければならない。
44:11 彼らは神殿の門で番をし、神殿で奉仕をして、わたしの聖所で仕え、また、民のために全焼のささげ物といけにえを屠り、こうして民の前に立って、彼らのために仕えるはずなのだ。
44:12 レビ人たちは民の偶像の前で民に仕え、そのことでイスラエルの家を不義に引き込むものとなった。それゆえ、わたしは彼らに手を上げて厳かに誓う——【神】である主のことば——。彼らは自分たちの咎を負わなければならない。
44:13 彼らは、祭司としてわたしに仕えるために、わたしに近づいてはならない。わたしのあらゆる聖なるもの、また最も聖なるものに近づいてはならない。彼らは、恥辱と、自分たちの行った忌み嫌うべきわざの責めを、負わなければならない。
44:14 わたしは彼らに、神殿のあらゆる奉仕と、そこで行われる神殿のすべての任務を果たさせる。

主が入られた「門は閉じる」というのは、主だけが他のすべてと区別されなければならない

からです。神様を特別なお方としてあがめましょう。
かつての「いみきらうべきわざ」について、主は「もうたくさんだ」と言われます。またレビ人が神様を「捨て去った」ことも言及なさいます。
主の回復は過去を単に水に流すというのではなく、過去を踏まえつつも、そこに解決と回復があるというものです。イエス様の十字架の勝利がすべてを解決するのですから、過去からも目を背けずに、勝利をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



44:15 しかし、イスラエルの子らが迷ってわたしから離れたときも、わたしの聖所の任務を果たした、ツァドクの子孫のレビ人の祭司たちは、わたしに近づいてわたしに仕え、わたしの前に立ち、わたしに脂肪と血を献げることができる——【神】である主のことば——。

44:16 彼らはわたしの聖所に入ることができる。わたしの机に近づいてわたしに仕え、わたしへの務めを果たすことができる。

44:17 彼らは、内庭の門に入るときには、亜麻布の服を着なければならぬ。内庭の門、および神殿の中で務めをするときは、毛織物を身に着けてはならない。

44:18 頭には亜麻布のターバンをかぶり、腰には亜麻布のももひきをはく。汗の出るようなものを身に着けてはならない。

44:19 彼らが外庭に出て、外庭の民のところに出て行くときは、務めのときに着ていた服を脱ぎ、それを聖所の部屋に置き、ほかの服を着なければならぬ。その服によって民を聖なる者とするのではないためである。

44:20 彼らは頭を剃ってはならない。髪を長く伸ばしすぎてもいけない。頭の毛はきちんと切りそろえなければならぬ。

44:21 祭司はだれでも、内庭に入るとき、ぶどう酒を飲んでではない。

44:22 やもめや離縁された女を妻にしてはならない。イスラエルの民のうちの処女を妻としなければならない。しかし、やもめでも、それが祭司のやもめであれば、妻としてもよい。

44:23 彼らはわたしの民に、聖なるものと俗

なるものとの違いを教え、汚れたものときよいものとの区別を告げ知らせなければならない。

44:24 争いがあるときには、わたしの定めにしたがってさばきの座に着き、これをさばかなければならない。わたしのすべての例祭には、わたしのおしえと掟を守り、わたしの安息日を聖なるものとしなければならない。

44:25 彼らは、死んだ人間に近づいて身を汚してはならない。ただし、自分の父、母、息子、娘、兄弟、未婚の姉妹によって汚れることは許される。

44:26 その場合、祭司はきよめられた後、さらに七日を数えなければならない。

44:27 聖所で仕えるために聖所の内庭に入る日には、罪のきよめのささげ物を献げなければならない——【神】である主のことば。

44:28 祭司たちへのゆずりとなるのはこれである。わたしが彼らへのゆずりである。あなたがたはイスラエルの中で彼らに所有地を与えてはならない。わたしが彼らの所有である。

44:29 彼らの食物は、穀物のささげ物、罪のきよめのささげ物、代償のささげ物である。イスラエルのうちで、聖絶されたものはみな、彼らのものである。

44:30 あらゆる種類の初物、あなたがたのあらゆる奉納物のうちの最上の奉納物は、すべて祭司たちのものであり、あなたがたの麦粉の初物も祭司に与えなければならない。あなたの家に祝福が宿るためである。

44:31 祭司たちは、死んだ動物や、野獣にのみ裂かれたものはすべて、鳥であれ獣であれ、食べてはならない。」

祭司の規定が細かに書かれています。その目的は「わたしの民に、聖なるものと俗なるものとの違いを教え、汚れたものときよいものとの区別を教えなければならない。」ということです。クリスチャンは万民祭司として、新約の祭司であり、伝道や証によって、民と神の間をつなぐ使命を持っていますから、同じように聖なるものと俗なるものの区別を明かにしたライフスタイルが求められます。

それは律法的に生きるというのではなく、俗なる世に住みながらも、聖なる神様の存在とみこころが、表れるような生き方ということです。

主に従って、主の恵をいただき、それを発信してゆくということが基本になるでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



45:1 「あなたがたが相続地としてその地をくじで分けるときは、その地から奉納地として聖なる区域を【主】に献げなければならない。その長さは二万五千キュビト、幅は一万キュビト。その全域は聖なる地である。

45:2 このうち、縦横五百キュビトの正方形を聖所に充て、五十キュビトの空き地がその周りにあるようにする。

45:3 この区域の中から、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトを測り、その中に最も聖なる所、聖所があるようにせよ。

45:4 これはこの地の聖なる部分である。これは、聖所で仕え、【主】に近づいて仕える祭司たちのものとなる。ここを彼らの家の敷地とし、聖所のための聖なる所とする。

45:5 また、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトの地は、神殿で奉仕をするレビ人のものとし、二十の部屋を彼らの所有としなければならない。

45:6 聖なる奉納地に沿って、幅五千キュビト、長さ二万五千キュビトを町の所有とし、これをイスラエルの全家のものとする。

45:7 君主の土地は、聖なる奉納地と町の所有地との両側にあり、聖なる奉納地と町の所有地に面し、西側は西の方へ、東側は東の方へ延びている。その長さは一つの部族の割り当て地と同じで、西の境界線から東の境界線にまで及んでいる。

45:8 これがイスラエルの中の彼の所有地である。わたしの君主たちは二度とわたしの民を虐げることなく、この地は部族ごとに、イスラエルの家に与えられる。」

主は具体的な規定を設けて、その働きが十分でありまた継続できるようになさいました。それは「聖なる区域」というように、地上のものでありながら、それを霊的なことのために用いるのです。

このように私たちは、この世のものをういて永遠の命のために活かします。主がこの世の創造者であり、権威者であるから、私たちはその主によって、見える者も与えています。主のものは主にお返ししましょう。財も、時間も、才能も主から預けられているのですから、それらを自分のもののように勝手に用いないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

